

1 ねらい

- (1) 身近なエコ活動や企業が行っているエコ活動について興味をもち、進んで調べようとしたり、自らエコ活動に取り組もうとしたりすることができるようにする。
- (2) 社会で行われているエコ活動について、新聞やインターネット、工場見学などから、自分の必要な情報を取得・分析して調べることができるようにする。
- (3) 温暖化防止に対する人々の活動や思いを知り、エコ活動の重要性を理解できるようにする。

2 実践の概要

新聞記事やインターネットなどの資料から、社会全体で、多くのエコ活動が行われていることを生徒は知った。そこで、日本の温室効果ガスがどのように変化したのか興味をもつようになり、調べてみることにした。ヨーロッパ諸国が軒並み下がっていることから、日本もきっと下がっているだろうと予想した生徒たちにとって、日本の温室効果ガス排出量が増加している

国名	削減義務	排出量の増減 (1990～2005)
フランス	0%	-7.1%
イギリス	-12.5%	-15.4%
ドイツ	-21%	-19.5%
日本	-6%	7.1%

(右表) ことは驚きだったようだ。しかし、このような中でも、唯一工場からの排出量は減少していることを示し、企業がなぜ温室効果ガス削減に成功したのか、さらに詳しく調べることとなった。

生徒たちは、愛知県に工場をもつ9つの企業の中から1社を選んで調べた。インターネットやパンフレット、本などで調べることを通して、エコ商品の仕組みやそのよさ、商品の製造中における環境への配慮などを学んだ。普段何気なく購入したり、使用したりしている製品なのだが、企業の工夫と開発によって、環境によいものへと改良されていることを知り、小さなことにも気を配る企業の努力を感じることができた。

企業の調べ学習後、実際にその工場の見学に出かけた。工場では、製品が作られていく様子だけでなく、太陽光パネルや植樹などの工場内で行われているエコ活動や社員の方が普段意識していることなども教えていただいた。この見学から、生徒たちは、企業の環境に対する意識の高さを感じ、自分たちでも小さなことから行っていこうと意欲をもつことできた。



<「企業のECO活動新聞」>



<「企業訪問の様子」>

王子製紙へのお礼の手紙

1月13日は、王子製紙を見学させていただき、本当にありがとうございました。

(中略)

私は最初、「工場なんてあったって、空気汚してるだけじゃん。『地球温暖化をSTOPさせなきゃ』とか言ってるけど、言ってるだけじゃん。ばりばりCO2増加させちゃってじゃん。これ地球の平和はどうなの？一応私たちにも未来はあるつもりなんですけど。」と悪態しか思いつきませんでした。けど、王子製紙を見学して、工場がどれだけがんばって「私たちの生活」と「CO2削減」を両立しようとしているのが、少し分かった気がします。

今回は、見学させていただいて本当にありがとうございました。今回の見学のおかげで、「CO2削減」にもより深い興味をもって、「工場」にも少し敬う気持ちが生まれました。

3 実践を振り返って

企業の調査・見学から、身近なエコ活動を実践していこうという気持ちをもった生徒たちは、行いたいエコ活動とそのチェック方法を考えた。「小さなことでも、一人ひとりが取り組んでいくことが大切だ」ということを改めて感じた。自分自身の生活を見直し、「電気をこまめに消す」「物の無駄遣いをしない」などの具体的な行動目標を立てた。今後は継続して環境によい生活ができるよう、支援していきたい。